

外務省が収集・分析した戦時下の国際情勢の極秘資料。

# 世界情勢ノ動向

外務省政務局 編／全5巻

解説：佐藤 元英



クレス出版

# 『世界情勢ノ動向』の復刻によせて 第二次世界大戦における日本外務省の世界情勢判断

駒沢大学教授

佐藤 元英

我が国にとって二〇世紀に残した最大の負の遺産とは何か、アジア太平洋戦争によってもたらされた、地球規模の犠牲を強いられたことであろう。戦後五六年の歳月がながれ、二一世紀の幕開けとなったが、このアジア太平洋戦争をいかに総括するかは、必ずしも明らかではない。戦中戦後を通じて一般国民が戦争の実態を認識するには、あまりにも情報不足である。さらに「戦争責任」については、それぞれの国および人々の立場によって取り上げ方が異なり、難しい問題を含む。しかし、重要なことは、史実の解明なしに戦争の反省は生まれないということである。

この度、「世界情勢ノ動向」がクレス出版より復刻されることは、国の内外の政治、外交、軍事あるいは国際関係史の研究者のみならず、広く一般市民にとっても貴重な情報開示となる。なぜなら、この「世界情勢ノ動向」は、日本外務省政務局によって昭和十七年一月より昭和二十年五月まで週報として編集されたものの、「機密保持」のため内容の取り扱い並びに保管について特別

の注意が払われ、長年「極秘」とされてきたものであるからである。従来の研究では、軍部に対抗し戦争を早期終結に導こうとしたのが外務省であるとされているが、その我が国外務省が握っていた情報網を駆使して収集・分析した国際情勢とはいかなるものであったのか、ここに初めて証されたのである。内容は、総説、大東亜各地、欧州戦況、ドイツ、イタリア、ソ連邦、フランス、イギリス、アメリカを中心、トルコ、アフガニスタン、ポーランド、チエコスロヴァキア、ユーゴスラビア、ハンガリー、スペイン、ヴァチカン、中南米諸国、豪州その他世界各地の情勢が分析されており、「五月八日、独逸降伏シ、欧州戦争終了ス」との情報を伝えた、昭和二十年五月一日号をもって最終号となっている。第二次世界大戦の戦局に照らし合わせ、日本外務省の世界情勢判断はいかなるものであったのか、当時の戦時下における様々な現状認識が読み取れる、きわめて貴重な資料であり、当該研究の進展に大きく寄与していくことを期待したい。

## 第二卷第二十三報目次

一、總 説	二一	(一) 英ノ航空機生産數	三六
二、第二戦線	二二	(二) 英國對外債務ノ増加	三八
(一) 戰 況	二二	(一) 米 國	三九
(二) 反 響	二二	(一) 「ロ」大統領ノ演説	三九
(1) 蘇聯 (2) 英國 (3) 米國 (4) 獨逸 (5) 佛蘭西 (6) 歐		(二) 波蘭首相ノ渡米	三九
洲中立國 (7) 土耳其 (8) 東亞各地 (9) 重慶		(一) 葡 萄 牙	三九
三、南伊戦線及伊太利内閣更迭	二九	(一) 葡國「國民同盟」黨第二回大會ト葡國動向	三九
(一) 戰 況	二九	(二) 「ワカルフラム」禁輸問題	三九
(二) 「ボノミ」内閣成立	二九	(一) 十、北 阿	四一
四、芬 蘭	三〇	(二) 「ド・ゴール」政權正式承認問題	四一
親英紙ノ發禁	三〇	十一、「イラク」	四二
五、蘇 聯 邦	三〇	内閣更迭	四二
(一) 蘇聯ノ對芬攻撃開始	三〇	十二、印 度	四三
(二) 米商業會議所代表ノ米蘇親善演説	三〇	蘇聯勢力ノ印度浸潤	四三
(三) 「戰勢」紙ノ重慶指導者非難	三〇	十三、「エクアドル」	四三
六、米英蘇關係	三二	新政府承認	四三
(一) 蘇聯ノ米英非難	三二	十四、大東亞各地	四四
(二) 援蘇物資ニ關スル蘇側發表	三二	(一) 河南作戰ノ概況及長沙戰況	四四
七、英 國	三七	(二) 重慶國共關係ノ近狀	四四
		(三) 「マイノ」ラニツト」事件	四四

ニ關シ同代表ハ國民間ノ憎惡感竝戰爭ノ根底ニハ人種的差別乃至優越感カ横ハリ居レリト言明セリ。

## 二、歐洲戦争ノ終熄

### (一) 獨 逸

#### (1) 「ヘルベ」河以東

蘇軍ハ、二日、伯林完全占領ヲ發表セリ。  
其ノ他、蘇軍ハ、一日、「シュトラルズンド」、二日、「ノイ・オルビン」、「ロシュトック」、「ヴァルネミンデ」、三日、「ヴァイテンベルグ」、五日、「シュヴァーネムンデ」、六日、「リュウゲン」島、七日、「プレスラウ」、「ドレスデン」ヲ占領セリ。猶英蘇兩軍ハ、一日、「ヴァイスマル」、三日、「ウイッテンベルグ」地區ニ於テ合流セリ。  
(2) 「エルベ」河以西及「リュベック」地區

和蘭、丁抹、獨西北部ノ獨軍ハ、四日、英軍ニ對シ降服シ、獨軍司令官「フリードブルク」元帥(「デーニッツ」元帥ノ後任トシテ獨海軍總司令官トナル)及「モンゴメリー」間ニ停戦協定締結セラレタリ(「グリニッチ」標準時五日前六時發効)。次イデ、五日、「バイエルン」、「オストマルク」方面ノ獨G軍集團(司令官「シュルツ」大將)ハ、米第六軍集團司令官「デヴァース」ニ對シ降伏セリ。斯クシテ米英軍ハ無抵抗ニ進撃シ、一日、「ミュンヘン」、「フリードリッヒスハーフェン」、二日、「リュベック」、「ヴァイスマル」、三日、「バッサウ」、「オルデンプルグ」、四日、「ペレヒテスガデー



# 世界情勢ノ動向

外務省政務局 編／全5巻 解説：佐藤 元英

A5判／上製函入クロス装 揃定価88,000円(税別)

2001年6月刊 ISBN4-87733-124-7(セット)

- 第1巻 第1巻第1報(昭和17年11月14日)～第1巻第24報(昭和18年4月23日)  
第2巻 第1巻第25報(昭和18年5月1日)～第1巻第49報(昭和18年10月15日)  
第3巻 第2巻第1報(昭和19年1月15日)～第2巻第21報(昭和19年6月2日)  
第4巻 第2巻第22報(昭和19年6月9日)～第2巻第51報(昭和19年12月29日)  
第5巻 第3巻第1報(昭和20年1月12日)～第3巻第18報(昭和20年5月11日)

## クレス出版好評既刊書

### 朝鮮総督府施政年報

全30巻 朝鮮総督府編 広瀬順皓解説

明治39年韓国統監府が設置されて以来、明治43年の日韓併合をへて昭和16年版まで刊行された日本の朝鮮統治の年次報告書。行政、司法、治安、財政、金融、交通、産業、教育等各分野を網羅し、日本の朝鮮支配研究の基礎史料の一つである。

揃定価380,000円 ISBN4-906330-37-1,38-X,39-8,40-1

### 満洲誌草稿

全15巻 関東都督府陸軍經理部編 安富歩解説

明治39年より同44年に至る実地調査報告に基づく膨大かつ詳細な秘密資料。豊富な数量データを表や図で示し、図版や写真も多数収載。第一輯 一般誌全4巻、第二輯 満洲地方誌(奉天省、吉林省、黒龍江省)全7巻、第三輯 接壤地方誌全3巻、附録 全1巻  
揃定価298,000円 ISBN4-87733-114-X(セット)

### 増補朝鮮総督府三十年史

全3巻 朝鮮総督府編

朝鮮総督府の施政を歴代総督毎に分けて詳細に記述し、日本の朝鮮支配四十年を通覧する第一級史料。「施政方針」「財政」「産業」と続く各項目は、当該時期の朝鮮統治を簡潔に物語り、日本の朝鮮植民地支配研究の辞書代わりにも利用できるレファレンス・ブック。

揃定価36,000円 ISBN4-87733-062-X

### 満州国現勢

全9巻 満州国通信社編 井村哲郎解説

建国から康德10年版まで刊行された、満州国に関する基本的な事項の変遷を調べるために有用な年鑑。満州国の特記すべき事績、中央行政統治機構の概説と主要官僚の略歴等を詳細に記述し、年表、主要統計も掲げている。満州国をめぐる内外情勢に関する解説もある。  
揃定価250,000円 ISBN4-87733-100-X,101-8

### 朝鮮満蒙地誌叢書

全3巻 朝鮮及満州社編

大正7年に刊行された『朝鮮及満蒙叢書』を底本とする朝鮮・満州・シベリアの貴重文献。日本近代史、東アジア近代史研究必携書。

朝鮮地誌 定価26,000円 ISBN4-87733-081-X

満州地誌 定価16,000円 ISBN4-87733-082-8

西比利亞地誌 定価8,000円 ISBN4-87733-083-6

### 日本帝国委任統治地域行政年報

全7巻 外務省編 等松春夫解説

1920年から38年まで日本政府が毎年国際連盟に提出した日本統治下の南洋群島の行政報告。行政のみならず法制、産業、交通、労働、教育、医療、軍事等のデータを収録し、戦間期の植民地支配の国際比較研究にも役立つ、南洋群島統治研究の基礎史料。

揃定価100,000円 ISBN4-87733-061-5

### 朝鮮近代史料研究

全9巻 財団法人友邦協会編 橋谷弘解説

朝鮮総督府高官らに植民地支配の実態を聞き、録音したテープの中から厳選して活字化した『友邦シリーズ』30冊を内容別に編纂。総督府の予算を編成した財務局長の水田直昌の朝鮮近代財政に関する事や、『朝鮮ノ小作慣行』の主任事務官であった塩田正洪などの収録。

揃定価200,000円 ISBN4-87733-120-4(セット)

### 南洋叢書

全5巻 満鉄東亜経済調査局編 原田勝正解説

第一次大戦後、とくに1930年代にはいり日本の資源獲得のために目標となった地域(蘭領東印度、佛領印度支那、英領マレー、シヤム、比律賓)の広範囲に及ぶ高度な資料集。経済・商業・貿易・交通・国際関係等の研究にも利用できる叢書。

揃定価70,000円 ISBN4-906330-36-3

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14-5 メロナー日本橋  
☎(03)3808-1821 ㊚(03)3808-1822 <http://www.kress-jp.com/>



株式会社クレス出版